

関係各位

京都府病虫害防除所長
(公 印 省 略)

病虫害発生予察情報について

下記のとおり発表しましたので送付します。

病虫害発生予報第 9 号 (1 1 月)

予報の概要

作物名	病虫害名	予想発生量 〈平年比(前年比)〉
チャ	カンザワハダニ	山城 少 丹波 <u>やや多</u> 丹後 <u>やや多</u>
	チャノホソガ	山城 やや少 丹波 少 丹後 少
野菜	アブラナ科野菜 ベと病 アブラナ科野菜 白さび病 アブラナ科野菜 白斑病 キャベツ 菌核病 キャベツ 黒腐病 アブラナ科野菜 コナガ ネギ ネギアザミウマ ネギ ネギハモグリバエ 野菜類 シロイチモジヨトウ	<u>やや多</u> (やや多) <u>やや多</u> (やや多) <u>やや多</u> (やや多) <u>多</u> (多) <u>多</u> (多) 少 (少) <u>やや多</u> (並) やや少 (並) <u>やや多</u> (並)

※平年とは過去 10 年の平均である。

目 次

予報の概要	1
予報本文	2
今後注意すべきその他の病虫害等	5
参考	
I 近畿地方の気象の 1 か月予報	7
II 用語の定義	7

農作物病虫害情報サ
ビスホームページ

<https://www.pref.kyoto.jp/byogai/>



病虫害予察情報等メール
サービス

<https://www.pref.kyoto.jp/bojosho/mailservice/mailservice.html>



予報本文

チャ

1 カンザワハダニ

予報内容	発生量：山城	平年比少ない
	丹波	平年比やや多い
	丹後	平年比やや多い

予報の根拠

- (1) 10月中旬現在、発生量は山城で発生を認めず（平年比少ない（－））、丹波及び丹後で平年比やや多い（＋）。
- (2) 向こう1か月の気温は平年比高く（＋）、降水量は平年比多く（－）、日照時間は平年並か少ないと予想されている。

発生生態及び防除上注意すべき事項

- (1) 気温が低下するとすそ葉に移動して越冬し、翌春の発生源となる。
- (2) 翌春の一番茶期の発生を抑えるには、越冬前の防除が有効である。越冬前の防除が十分でないと、翌春の一番茶期間近に発生が多くなるので、越冬前防除の徹底を心掛け、遅くとも11月末までに終えるようにする。

2 チャノホソガ

予報内容	発生量：山城	平年比やや少ない
	丹波	平年比少ない
	丹後	平年比少ない

予報の根拠

- (1) 10月中旬現在、発生量は山城で平年比やや少なく（－）、丹波で発生を認めず（平年比少ない（－））、丹後で発生を認めなかった（例年比少ない）。
- (2) フェロモントラップへの誘殺数は宇治市で平年並、綾部市及び京丹後市で平年比少ない（－）。

発生生態及び防除上注意すべき事項

- (1) 通常、年5回世代を繰り返し、蛹で越冬する。
- (2) 特に自然仕立て園では園をよく見回り、発生を認めたら直ちに防除し越冬密度を下げるようにする。

※今後注意すべきその他の病虫害等は p. 5 を参照

野菜

1 アブラナ科野菜 ベと病

予報内容	発生量：平年比やや多い（前年比やや多い）
------	----------------------

予報の根拠

- (1) 10月中旬現在、キャベツで発生を認めず（平年並）、カブでの発生量は平年並。
- (2) 向こう1か月の気温は平年比高く、降水量は平年比多く（＋）、日照時間は平年並か少ないと予想されている。

発生生態及び防除上注意すべき事項

- (1) キャベツをはじめ、ハクサイ、ダイコンなどの各種アブラナ科野菜で発生し、アブラナ科野菜を連作した場合に発生が多くなる。
- (2) 気温が低く降雨が続く秋から初冬及び春先に発生が多い。
- (3) 肥切れすると発生しやすいので、肥培管理に注意する。

2 アブラナ科野菜 白さび病

予報内容 発生量：平年比やや多い（前年比やや多い）

予報の根拠

- （１）１０月中旬現在、ダイコン及びカブで発生を認めていない（平年並）。
- （２）向こう１か月の気温は平年比高く、降水量は平年比多く（＋）、日照時間は平年並か少ないと予想されている。

発生生態及び防除上注意すべき事項

- （１）１０月～１１月の降雨が連続する時期に発生が多い。
- （２）窒素肥料の過多を避け、水はけを良くする。
- （３）過繁茂にならないよう適切な播種量を心掛け、間引きを徹底する。

3 アブラナ科野菜 白斑病

予報内容 発生量：平年比やや多い（前年比やや多い）

予報の根拠

- （１）１０月中旬現在、カブで発生を認めていない（平年並）。
- （２）向こう１か月の気温は平年比高く、降水量は平年比多く（＋）、日照時間は平年並か少ないと予想されている。

発生生態及び防除上注意すべき事項

- （１）雨の多い年は、初秋から晩秋にかけて発生が多い。
- （２）強風雨や泥のはね上げは、本病の伝染、まん延を助長する。
- （３）肥切れすると発生しやすいので、肥培管理に注意する。
- （４）多湿条件で発生しやすいので、ほ場の排水を良好にする。

4 キャベツ 菌核病

予報内容 発生量：平年比多い（前年比多い）

予報の根拠

- （１）１０月中旬現在、発生量は平年比多い（＋）。
- （２）向こう１か月の気温は平年比高く、降水量は平年比多く（＋）、日照時間は平年並か少ないと予想されている。

発生生態及び防除上注意すべき事項

- （１）発病適温は２０℃前後で、曇雨天が続いた時に発生しやすくなる。
- （２）発生終期に菌核が形成され土中に落ち、次の伝染源となる。菌核は土壌中で２～３年間生存する。
- （３）発病株は菌核を形成するまでに抜き取り、適正に処分する。

5 キャベツ 黒腐病

予報内容 発生量：平年比多い（前年比多い）

予報の根拠

- （１）１０月中旬現在、発生量は平年比やや多い（＋）。
- （２）向こう１か月の気温は平年比高く、降水量は平年比多く（＋）、日照時間は平年並か少ないと予想されている。

発生生態及び防除上注意すべき事項

- （１）害虫の食痕や風雨による傷口等は細菌の侵入を容易にし、本病の発生を助長するので、早期防除に努める。
- （２）降雨日数と発生量との相関が高い。

6 アブラナ科野菜 コナガ

予報内容 発生量：平年比少ない（前年比少ない）

予報の根拠

- (1) 10月中旬現在、キャベツ、ダイコン及びカブで発生を認めていない（平年並）。
- (2) 9月第3半旬～10月第2半旬の予察灯（60W）への誘殺数は、京田辺市で平年並、亀岡市及び京丹後市で平年比やや少ない（－）。
- (3) 9月第3半旬～10月第2半旬のフェロモントラップへの誘殺数は、京田辺市で平年並、亀岡市で平年比やや少なく、京丹後市で例年比少ない（－）。
- (4) 向こう1か月の気温は平年比高く（＋）、降水量は平年比多く（－）、日照時間は平年並か少ないと予想されている。

発生生態及び防除上注意すべき事項

- (1) 防虫ネット等を利用し、物理的防除に努める。
- (2) 発生回数が多く（10～12回／年）、各発育段階（卵、幼虫、蛹、成虫）が同時期に混在する。

7 ネギ ネギアザミウマ

予報内容 発生量：平年比やや多い（前年並）

予報の根拠

- (1) 10月中旬現在、発生量は小株、大株とも平年比やや多い（＋）。
- (2) 向こう1か月の気温は平年比高く（＋）、降水量は平年比多く（－）、日照時間は平年並か少ないと予想されている。

発生生態及び防除上注意すべき事項

- (1) ネギアザミウマは、年間10世代以上くり返し、葉の表層を食害し、かすり状の食害痕を残す。ネギでは葉鞘分岐部や葉折れの内側に多く寄生する。
- (2) 本種は、ネギえそ条斑病の原因となるアイリス黄斑ウイルス（Iris yellow spot virus：IYSV）を媒介する。
- (3) 薬剤散布の他、赤色系防虫ネットやUVカットフィルムによる物理的防除が効果的である。
- (4) 被害葉及び収穫残さが本虫の発生源となるので、残さは一箇所にまとめて積み上げ、表面をビニルで被覆する等適切に処分する。
- (5) 殺虫剤散布後は効果を十分に確認し、感受性の低下が疑われる場合は系統の異なる薬剤をローテーション散布する。

詳細は下記の資料を参照。

技術資料「ネギアザミウマに対する薬剤殺虫効果（2021年）」

<https://www.pref.kyoto.jp/byogai/documents/negiazamiumakanjyusei2021.pdf>

技術資料「ネギえそ条斑病防除マニュアル」

https://www.pref.kyoto.jp/byogai/documents/negi_iysv-manual_20200124-forhp.pdf

技術資料「ネギ栽培における赤色系防虫ネット技術マニュアル」

https://www.pref.kyoto.jp/byogai/documents/negi_redcolor-net_manual.pdf



8 ネギ ネギハモグリバエ

予報内容 発生量：平年比やや少ない（前年並）

予報の根拠

- (1) 10月中旬現在、発生量は小株及び大株で平年比やや少ない（－）。
- (2) 向こう1か月の気温は平年比高く（＋）、降水量は平年比多く（－）、日照時間は平年並か少ないと予想されている。

発生生態及び防除上注意すべき事項

- (1) 幼虫が葉肉部分を加害し、白い筋状の食害痕を残す。
- (2) 産卵から羽化までの発育所要日数は20℃で約36日、25℃で約23日程度である。

- (3) 被害葉及び収穫残さが本種の発生源となるので、残さは一箇所にまとめて積み上げ、表面をビニルで被覆する等適切に処分する。
- (4) 1葉あたり1～数匹の幼虫が加害するバイオタイプA（従来系統）とは異なり、10匹以上の幼虫で集中的に加害し、葉を白化させるバイオタイプB（別系統）の発生を確認しているので注意する。



詳細は下記の資料を参照。

技術資料「ネギハモグリバエ防除マニュアル（2025年）」

https://www.pref.kyoto.jp/byogai/documents/negihamoguribae-manual_202502.pdf

9 野菜類全般 シロイチモジヨトウ

予報内容 発生量：平年比やや多い（前年並）

予報の根拠

- (1) 10月中旬現在、発生量はネギの小株で平年比やや多く、大株で例年比やや多い（+）。
- (2) 9月第3半旬～10月第2半旬のフェロモントラップへの誘殺数は、京田辺市で例年比やや少なく、亀岡市及び京丹後市で例年比やや多い（+）。
- (3) 向こう1か月の気温は平年比高く（+）、降水量は平年比多く（-）、日照時間は平年並か少ないと予想されている。

発生生態及び防除上注意すべき事項

- (1) 本種は齢が進むと、薬剤の効力が低下するので、ほ場をこまめに観察して早期発見に努め、若齢期の防除を徹底する。
- (2) 被害葉及び収穫残さが本種の発生源となるので、残さは一箇所にまとめて積み上げ、表面をビニルで被覆する等適切に処分する。
- (3) 本種は寄主範囲が広く、ネギ以外に豆類、野菜類、花き類を加害するので注意する。

詳細は下記の資料を参照。

技術資料「シロイチモジヨトウ防除における化学農薬使用回数の削減マニュアル（2025年）」。

https://www.pref.kyoto.jp/byogai/documents/shiroichimojiyotou-manual_202502.pdf



令和8年7月23日付け「病害虫発生予察注意報第3号」

https://www.pref.kyoto.jp/byogai/documents/chuui2026_03.pdf

を参照のこと。



※今後注意すべきその他の病害虫等はp. 6を参照

今後注意すべきその他の病害虫等

チャ

1 チャトゲコナジラミ

10月中旬現在、京都府全域で発生を認めている。

本種の農薬による防除は、冬期（1～2月）のマシン油乳剤の2回散布が有効である。ただし、赤焼病の発病を助長する。そのため、マシン油乳剤を散布する3日から7日前に銅水和剤を事前に散布すると、これを予防できる。

野菜

1 トマト黄化葉巻病及びトマト黄化病

トマト黄化葉巻病は、黄化葉巻ウイルス（TYLCV：Tomato Yellow Leaf Curl Virus）の感染により引き起こされる病気で、症状は、先端部の葉が内側に巻く、葉縁が黄化、株の萎縮等で、タバココナジラミによって媒介される。

トマト黄化病は、葉の一部の葉脈間が退緑及び黄化し、生理障害の苦土（マグネシウム）欠乏の症状に類似し、タバココナジラミ及びオンシツコナジラミによって媒介される。

詳細は令和3年8月6日付け「発生予察特殊報第1号」を参照。

https://www.pref.kyoto.jp/byogai/documents/tokusyu2021_01.pdf



2 キュウリ退緑黄化病、キュウリ黄化病、キュウリ黄化えそ病、CABYV

いずれもウイルスによる病害で、退緑黄化病及び黄化病では葉に退緑及び黄化症状を示して減収し、黄化えそ病では葉にモザイク、えそ斑点及び黄化等の症状を、果実にモザイク斑紋や奇形を生じて減収し、CABYV（和名未定）では中位葉の半分程度に退緑及び黄化症状が発生して減収する。いずれもキュウリ以外のウリ科作物でも発生する。媒介は、退緑黄化病ではタバココナジラミにより、黄化病ではオンシツコナジラミにより、黄化えそ病ではミナミキイロアザミウマによる。CABYVの媒介虫は不明であるが、海外ではアブラムシ類とされている。

詳細は下記の特殊報を参照。

キュウリ退緑黄化病

令和5年12月26日付け「発生予察特殊報第2号」。

https://www.pref.kyoto.jp/byogai/documents/tokusyu2023_02.pdf



キュウリ黄化病

令和6年4月24日付け「発生予察特殊報第2号」。

https://www.pref.kyoto.jp/byogai/documents/tokusyu2024_02.pdf



キュウリ黄化えそ病

令和6年9月4日付け「発生予察特殊報第4号」。

https://www.pref.kyoto.jp/byogai/documents/tokusyu2024_04.pdf



CABYV

令和6年2月1日付け「発生予察特殊報第1号」。

https://www.pref.kyoto.jp/byogai/documents/tokusyu2024_01.pdf



3 タバココナジラミ

タバココナジラミは世界中に分布し、多くのバイオタイプが存在する。中でもバイオタイプQは薬剤感受性が低く難防除害虫であるので、防虫ネットや黄色粘着板及び農薬等を組み合わせた「総合的害虫管理」が有効となる。

詳細は、技術資料「施設トマトにおけるタバココナジラミ防除マニュアル（2025年）」

https://www.pref.kyoto.jp/byogai/documents/tobacowhitefly-manual_202502.pdf



4 ネギベと病

10月以降、平均気温が10～20℃で降雨が多くなると、ほ場にすき込まれた罹病残さ等に潜伏している病原菌（卵孢子）の活動が活発となるので、本病の発生には十分注意する。

参 考

I 近畿地方の気象の1か月予報

(10月17日から11月16日までの天候見通し)

令和8年10月15日
大阪管区气象台発表

＜予想される向こう1か月の天候＞

暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は高いでしょう。期間の前半は、気温がかなり高くなる見込みです。低気圧や前線の影響を受けやすいため、向こう1か月の降水量は多く、日照時間は平年並か少ないでしょう。

天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

＜向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)＞

	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
気 温	10	20	70
降 水 量	20	30	50
日 照 時 間	40	40	20

病虫害防除所では上記の天候の1か月予報の表現を「向こう1か月の気温は平年比高く、降水量は平年比多く、日照時間は平年並か少ないと予想されている。」としました。

II 用語の定義

1 半旬のとり方

第1半旬 第2半旬 第3半旬 第4半旬 第5半旬 第6半旬
各月の 1～5日 6～10日 11～15日 16～20日 21～25日 26～最終日

2 発生量――病虫害の発生程度と広がり両面を加味したものをいう。

3 平年値――原則として過去10か年の平均とする。
データが10年に満たない場合は例年値とする。

4 平年値との比較

1) 時期

平年並	平年値を中心として前後2日以内
やや早い	平年値より3～5日早い
やや遅い	平年値より3～5日遅い
早い	平年値より6日以上早い
遅い	平年値より6日以上遅い

2) 量(発生量、発生面積等)

平年並	平年値並の発生で10年間に4回は発生する程度の普通の量
やや多い	「平年並」より発生が多く、10年間に2回程度の頻度で発生する量
やや少ない	「平年並」より発生が少なく、10年間に2回程度の頻度で発生する量
多い	「やや多い」より多く、10年間に1回程度しか発生しない量
少ない	「やや少ない」より少なく、10年間に1回程度しか発生しない量

※病虫害防除については、病虫害防除所・最寄りの農業改良普及センター又は農協にご相談ください。

詳しい農薬情報は、農林水産省ホームページの「農薬コーナー」の「農薬情報」をご覧ください。

ホームページアドレス http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_info/index.html

農業改良普及センター 電話番号一覧		
・京都乙訓	農業改良普及センター	075-315-2906
・山城北	農業改良普及センター	0774-62-8686
・山城南	農業改良普及センター	0774-72-0237
・南丹	農業改良普及センター	0771-62-0665
・中丹東	農業改良普及センター	0773-42-2255
・中丹西	農業改良普及センター	0773-22-4901
・丹後	農業改良普及センター	0772-62-4308

京都府病虫害防除所

〒621-0806 京都府亀岡市余部町和久成9

TEL 0771-23-9512

FAX 0771-23-6539

－農薬の使用にあたっては使用基準を遵守すること－